

夏期の石灰窒素 施用

被害圃場に 休作+夏期の石灰窒素 施用で

収量1.6倍、AM率20%アップ!

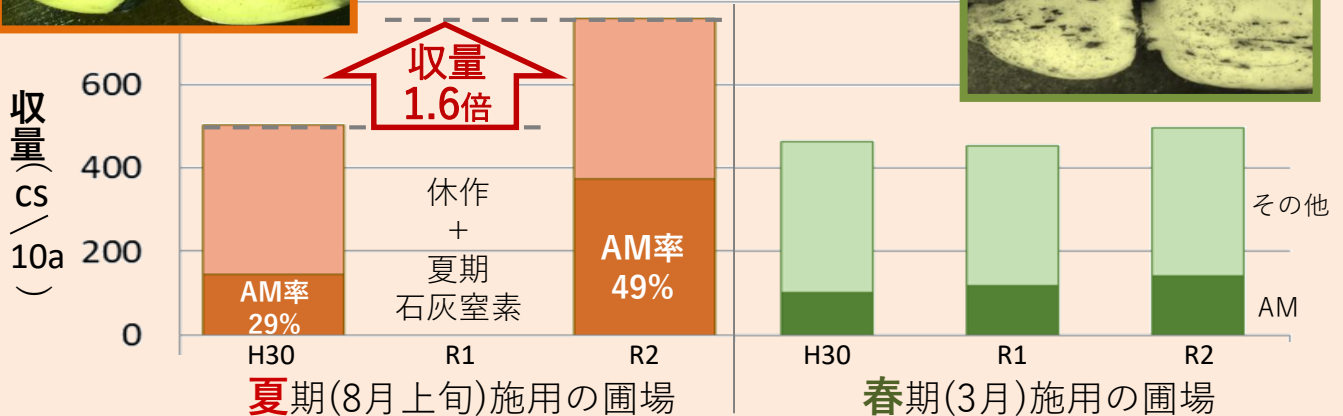
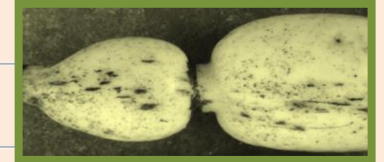


図 甚被害圃場における収量変化

【注意点】

- 施用量は100kg/10a、施用後は当日中に代かきをしましょう。
 - ・代かきをしないと防除効果はありません。
 - ・施用は植え付け前に1回（夏に施用したら翌春は施用しない）。
- 薬害に注意しましょう。
 - ・ドリフト注意！生育中の葉にかかると、葉は枯れます。
 - 夏期に施用する場合は、機械を使わず手散布を！
 - ・圃場から流出しないよう畦畔の修繕をしましょう。
 - ・れんこんの植わっている圃場には施用しない（収穫後か休作時に施用する）。
- 石灰窒素は肥料にもなります。
 - ・100kg / 10a施用した場合、肥料の窒素量約10kgに相当します。

Q：夏に石灰窒素はまけません。他に対策は？

A：休作ならどの圃場でも取り組みます。

- ・2~3年休作すると、土壌中の線虫は大幅に減少します。
- ・休作中は何もはやさないことが重要です。ヤナギ（野良バス）や雑草があるとそこで線虫が増えます。

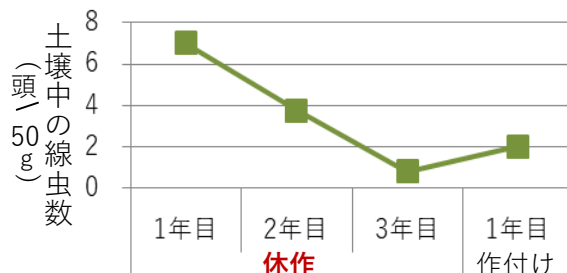


図 休作による防除効果 (H29~R2)

グランドオンコル粒剤 注意事項を守りましょう！

残留基準値が低いため、使い方を誤ると作物残留の危険性があります。万が一、残留事故が発生すると出荷停止や風評による被害、産地イメージの低下等、**産地全体に関わる重大な問題**になります。

○施用後180日(6か月)間は収穫しない。

収穫までの期間が短いと、作物残留の危険性があります。

○7月～12月は使用しない。

周りにある収穫前のれんこんへの作物残留の危険性があります。

○施用後すぐに代かきをする。

○隣接する田や水路に流出させない。

○14日間は落水・かけ流しをしない。

10a当たり使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
15kg	植付前(ただし、 収穫180日前まで)	1回	湛水散布後 全面土壌混和

7月以降にできること

【夏期の石灰窒素 施用】

- ・7月下旬～8月盆前までに施用すると効果が高い。
- ・できなければ8月中旬～10月中に。

被害の多い圃場は8月～9月中に早掘りする。

収穫後は残渣を持ち出す。

収穫後は堆肥等を入れて土づくり。

資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について最新の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。
記載された農薬の最新登録日：令和3年7月7日

【土浦地域農業改良普及センター】

土浦市真鍋5-17-26

土浦合同庁舎内

TEL：029-822-8517